

令和4年度 学校体育・スポーツ研究協議会について

【研修会の内容】

独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下「JSC」という。）では、JSCが作成した事故防止に資する資料の活用方法について幅広く周知し、資料の活用促進を図ることで、学校の管理下における事故防止の支援や、円滑な学校教育の実施に積極的に貢献するため、各教育委員会・学校（園）・関係機関等と連携して教職員等を対象とした研修会に職員を講師として派遣しております。

今回は、令和4年5月12日（木）～令和4年5月19日（木）に行われた長野県教育委員会主催の「学校体育・スポーツ研究協議会」から講師派遣の依頼をいただきました。

今回ご依頼いただいたきっかけは、教育委員会の研修ご担当者様が、昨年度JSCが長野県で開催したスポーツ庁委託事業セミナーを受講されたところから始まりました。

ご担当者様は、学校現場で実際に起こったたくさんの事例や、「学校安全Web」の映像資料などをセミナーで見て下さり、「学校現場にいた時に知っていたら、できることがたくさんあった。」と思うことが多くあったそうです。

加えて、教育委員会には毎月事故の報告があがって来ていて、その中には同じような事例を目にすることもあるそうです。多忙な学校現場の先生方が、学校事故に対する危機感を高く持ち続けるためには、このような具体的な事例に触れていくことが必要なのではないかと考えられたそうです。

そのご経験から、学校で起こりやすい事例や傾向についてたくさんの情報を持っているJSCから「こういう事故が多い、こういうことが起きている」ということを研修で講演してもらい、それを、先生方お一人お一人に、ご自身の生徒の顔を思い浮かべながら自分事として受け止めてもらい、危機感を持たせるような研修を行いたい、と改めてのご依頼でした。



研修会で説明を行うJSC職員

今回の研修会は、オンライン形式での開催で、長野県内の小・中学校の体育・保健体育担当教員539名が参加されました。本研修では「長野県の事故の実状及び学校安全Webを活用した事故防止」についてお話をさせていただきました。

1. 災害共済給付状況の推移と県内の体育授業中の事故の現状

災害共済給付の加入者数、災害の発生件数、障害見舞金及び死亡見舞金の給付件数の推移を説明し、県内の小・中学校における体育授業中の事故について、運動指導内容別に分析した統計データについてお話ししました。学校種別ごとの体育の授業中の事故の実態とともに、実際に起きた事例を挙げてご説明をしました。

2. 事故防止のための留意点

1の説明を踏まえ、体育活動中に多くの事故が発生した種目を取り上げ、運動を指導する際の事故防止のための留意点をご説明しました。取り上げた種目は、跳箱・マット運動及びバスケットボールです。

まず跳箱・マット運動に関しては、十分な準備運動を行わせた上で練習に取り組みさせることを心掛けることとお話ししました。また、いきなり高い跳箱等、高いレベルで練習を開始するのではなく、予備運動などを取り入れ、段階的な指導により、確実に一つ一つの技を習得させるような配慮が必要だにご説明しました。

次にバスケットボールでは、後に障害が残る事故として、歯牙障害や外貌に傷を残す醜状障害が多くなっていることを踏まえ、それらを予防することが事故を防ぐことに繋がるとご説明しました。一方、バスケットボールによる医療費給付事故は、手・手指のケガが多く、近距離・強度の高いパスの受け損ない等による負傷が多いため、まずは緩やかなスピードでイメージトレーニングをし、徐々にスピードアップしていくという段階的な指導が事故の予防に有効だということをお話ししました。

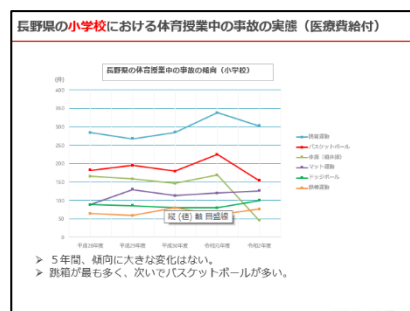
【参加者の感想】

研修終了後、参加者の皆様から寄せられた感想をご紹介します。

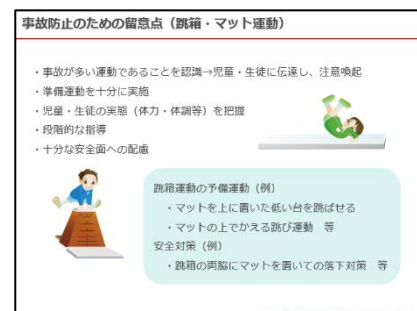
- ・講義の中で「段階的な指導」ということを強調していたので、「体作り運動を毎時取り入れる」「朝の会で体を使った運動を取り入れるようにする」など、その生徒にあった段階的指導を改めて今後取り入れようとするきっかけになった。
- ・今まで「危険を察知する」というのは教師の役割だと思っていて、児童・生徒と一緒に行うということがなかった。子どもと一緒に練習の内容・やり方を一緒に作っていく方法もあると気づけた。
- ・（講義後、「学校安全Web」の映像資料を見て）物語・ストーリー性があり、実際の現場にいたら…という臨場感を味わいながら視聴した。それぞれの学校現場の教職員にも共有してみんなで視聴する機会を作りたい。

【主催者の感想】

- ・今回JSCに講義を依頼したことで、実際に学校現場で起こった事故事例に触れられたことが大きい。「災害の発生数」よりも、「一つの事例を詳しく見る」方が現場の教員は危機感を感じる。
- ・子ども達の命を預かっている教員としての責任・危機感に繋がる大事な機会となった。
- ・ただの研修ではなく、学校に持ち帰れる内容であった。



資料① 長野県の小学校における体育授業中の事故の実態



資料② 事故防止のための留意点

【最後に】

多くの県内の体育・保健体育担当教員の先生方が参加され、研修会が開催されました。参加者及び主催者の皆様から、実際の事故事例に触れたことで自分事として危機感を持って、これからの指導に活かせる内容だったという感想が寄せられました。

今回講義で紹介したように、災害共済給付データを基に事故の傾向や対策等の資料を参加者と共有しましたが、その内容について職場においても教職員間で共有及び活用していただきながら、児童生徒等が安心して学校生活を送れるよう事故防止に取り組んでいただければ幸いです。

<参考資料>

◆スポーツ庁委託事業

- ・ [スポーツ事故防止対策推進事業 体育的行事における事故防止事例集（平成28年度）](#)
- ・ [学校における体育活動での事故防止対策推進事業](#)
- ・ [「体育活動中における球技での事故の傾向及び事故防止対策」調査研究報告書（2019年度）](#)

◆日本スポーツ振興センター（JSC）

- ・ [学校の管理下の災害（令和3年版）](#)